



とある学校での
ある日の出来事：

今日、このクラスに
新しい仲間が増える
ことになりました。

転校生マジか!?

そんな噂、全く
なかったよね…?

大地 だい ち
雲下 くものした

何の前触れもなく、
彼女はこの学校に
やってきた…

えっと…。入って来れ
ないでしようから、ちょっと
だけこっちに近づいて
ちょうだい

はーいっ!

!?

…?
!?

じゃあ紹介するわね。
今日からこのクラスで
一緒に生活することになった

な、何…?
今の地震?

地震なのか…?
地面が下がったって
感じだったぞ…?

……



きわなみ そら
極並 宙と言います。
好きな授業は家庭科です。

よろしくお願いします。

きわなみ そら
極並 宙
身長16000000cm



向こうに見える
あれが……。転校生？
嘘だろ……。



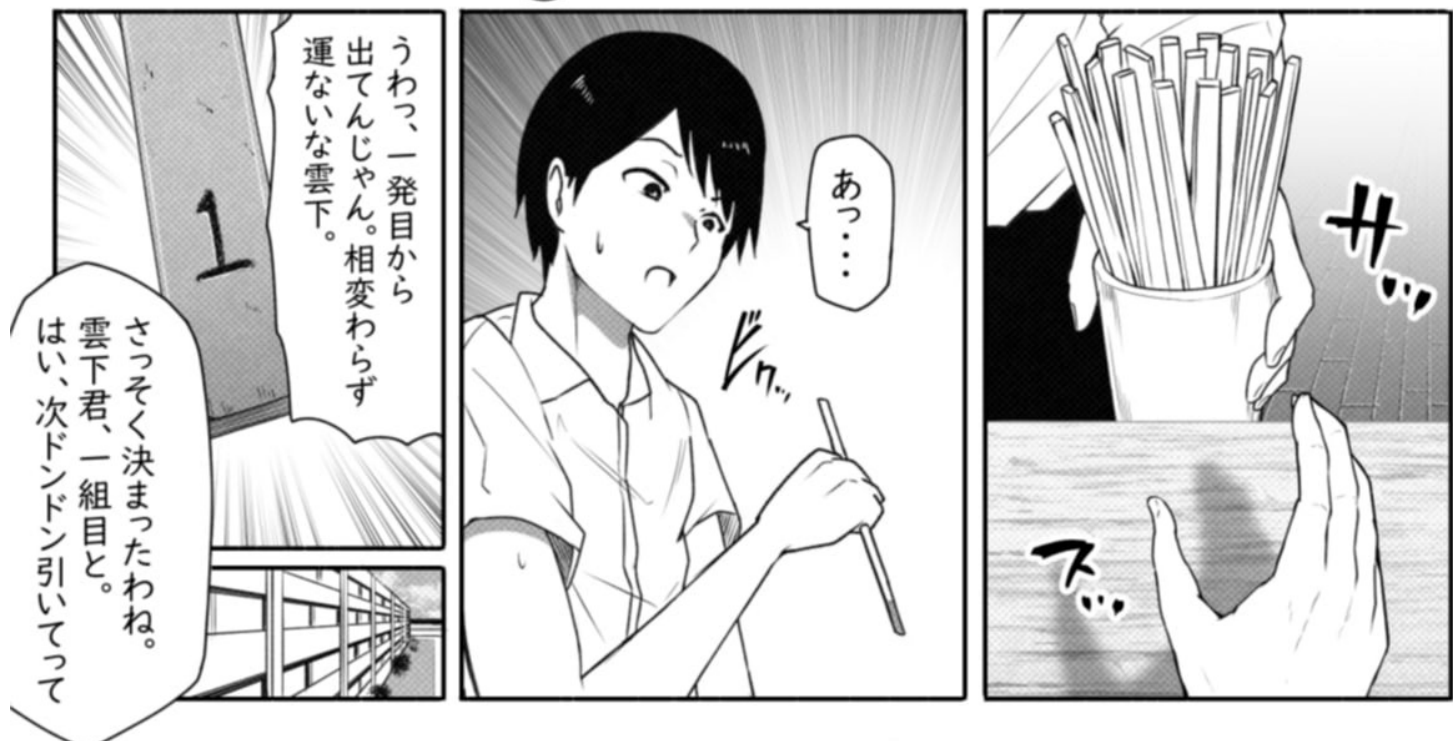
極並さん。
そのままできるだけ
動かずに話を聞いてね

はい……

サァー……



先生はそれから、極並かのじよが然さもいなかのよう、話を進めていった。
そして、いつも通り一時間目の授業が始まる……。







このできごと
二人三脚をきっかけに
宙に懷かれた雲下...
この日を境に彼の人生は
大きく変わっていくこととなる。



次の日の朝：

なんか外暗いな…？

家の中にも
誰もいないし…。
何がどうなってるんだ？

外にも誰もいないし
なんか気味が悪いな…。

おはよう
雲下くん！

一緒に学校行こ

うわあ！？





雲下くん聞こえる？
先生だけど





手…、
繋がない？



え…？



もう、女子から
握らせるつもり？

仕方ないん
だから

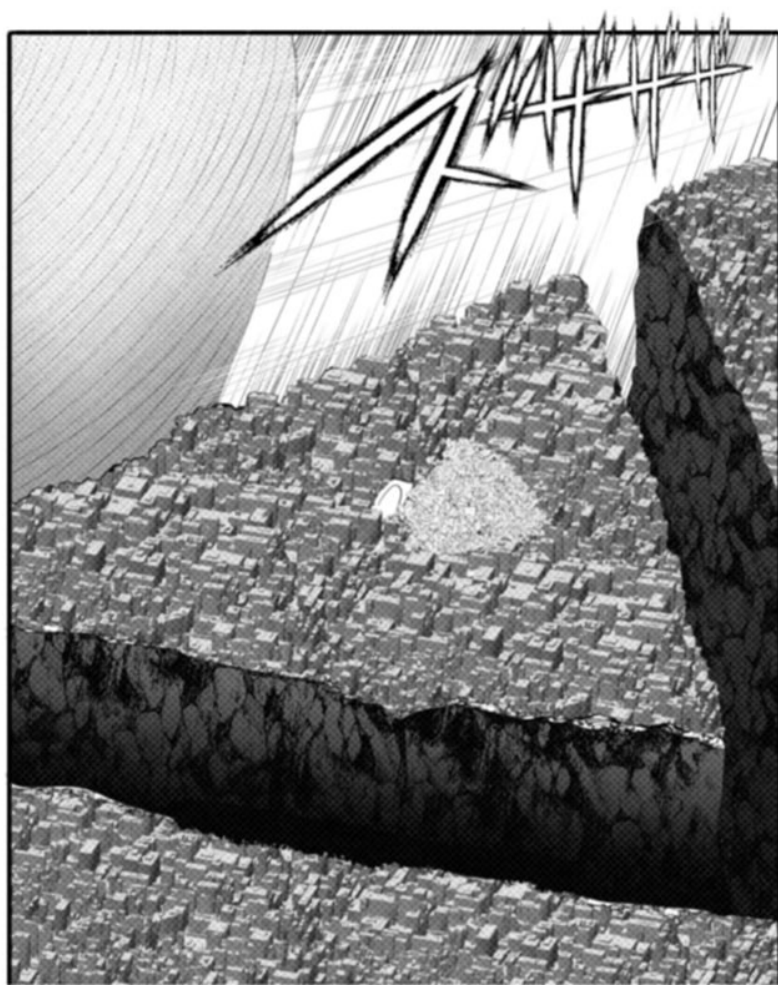


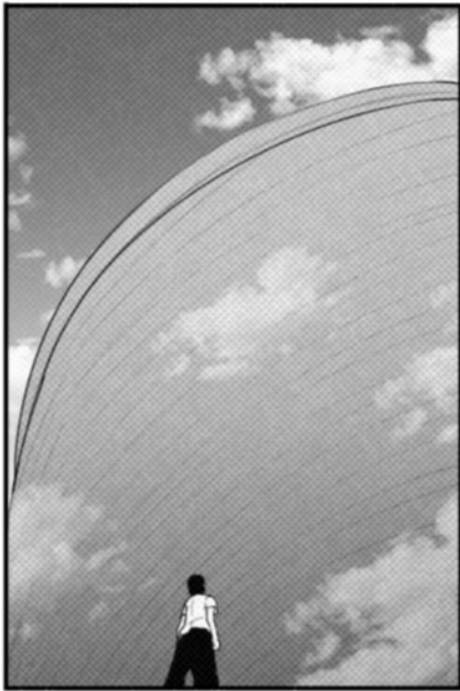
それじゃ、学校行こっか



でも、そういう
恥ずかしがる
ところも嫌い
じゃないよ









その…実はね私…
腕立て伏せが
できないの…



だからその練習を
手伝ってほしいんだ、
一回でいいから



でも、その代わり
雲下くんに手伝ってほしい
ことがあるんだ…

時間もあるし
構わないよね



下から持ち上げて、
補助して!!

男子ならそれぐらい
できるでしょ

一分後……

ちよつと!!全然、
持ち上げて
くれないじゃん!!

何してんの?
黙ってたから分からないよ。
あ、もしかして……!!

服が邪魔だとか言い訳
しようとしてるでしょ。
私分かってるんだから



そんなこと言わせない為に
雲下くんには服の中に入って
持ち上げてもらおうかなと
思うんだけど……

んう……。でも勝手に
こっちも決めつけすぎてる
ところもあるよね……

だから恥ずかしいけど
特別に私の体重ぐらいは
教えといてあげる



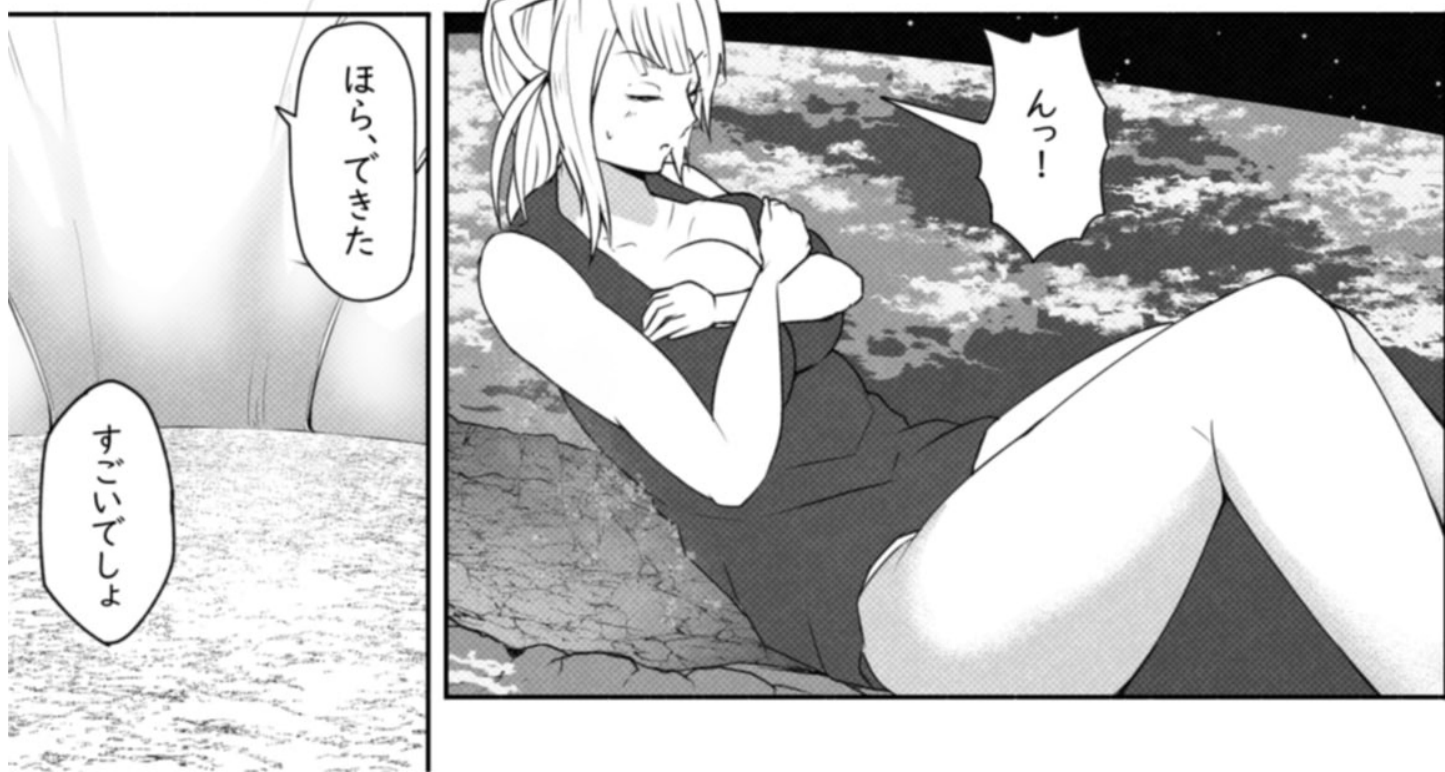
4京7千兆kgなんだけど、
この身長なら、そんなに
重くない方でしょ

服の中に入れて体重
まで教えたんだから
これでもし、持ち
上げられなかった場合

デブ扱いしたって
ことで私、怒るよ。
冗談じゃないから

じゃあ
上に乗るね







て、ちゃんと
見てくれて
ないじゃん!?

ガッ!?

そんな影に
隠れてたら見え
るわけないでしょ!!

もしかして私のこと
からかってんの? どれだけ
人を怒らせれば気が
済むわけ

これは、お仕置きが
必要みたいね。

もう、謝っても
手遅れなんだから。
覚悟しなさいよ

走って逃げてる
みたいだけど、
私があなたを逃がす
わけないじゃん

まだ逃げてるの？
雲下くん……？

存分に逃げ回って
くれていいけど、どこまで
行っても私の手のひらの
中なんだよね

あ、諦めた。もう雲下
くん。本当可愛すぎ。

そんな不安そうな
目で見つめないでよ。

そんなに心配する
ことないって、

ちゃんとお仕置きは
やってあげるから

とは言っても
これからやることは

ただ手を閉じる
だけなんだけどね。
それもゆっくり丁寧に

はい、じゃあ閉じていくね。
ほら、だんだん暖かく
なってきたでしょ。

これから光が届か
なくなる代わりに
私の温もりをあなたに
届けてあげる。

これは愛のある
お仕置きだから。

私の匂いと温もりに
包まれて雲下くんは
存分に反省するの。
分かった？

特製のマッサージはどう？
ちよっと痛いかもしれないけど
雲下くんの心をきつといい方向に
導いてくれるはずだよ

はい、お疲れ様。
どうだった？

見たところちゃんと
反省もしたみたいだし、

じゃあ、ご褒美
あげないかね。

パンツ見せて
あげる♡

これは信頼の証
だから存分に見てく
れて構わないよ。

好きでしょ？
こういうの？

ガサ...

ガラ...

ググググ

ほら、遠慮
しないで。

腹筋は見えてなかった
みたいだから、もっと近くで
見ていいよ。

ゴ

ガッ

ピン

グググ

触ってもいいよ。

グググ!!

指先一つにすら
抗えないなんて
可愛いを通り越して
可哀そう。

ここまで
弱いんと、
私なしだと
生きられ
ないんじゃない?

グググ!!





追いかけても
いいけど、結局
どこまで走っても
ずっと私の手の上
なんだけどね

それに、追いかけるのは男の子の方でしょ。

だからあなたの方から捕まえに来て。

それじゃあ雲下くん。

私の唇を捕まえてごらん



だって雲下くんと
遊ぶの楽しいん
だもん。

だからさ
……

逃げ道なんて与える
わけないじゃん

ぷるん

ぱるん

クッ
ス

クッ
クッ
クッ



雲下くん…。
私あなたのことが好き
だよ。だって…

雲下くんは私と一緒に
二人三脚をしてくれた。
初めて仲良くしてくれた
人なんだから

ジャラララ



ぶるるん

口にはしなかった
けど、本当は
すごく嬉しかった

ムギュー

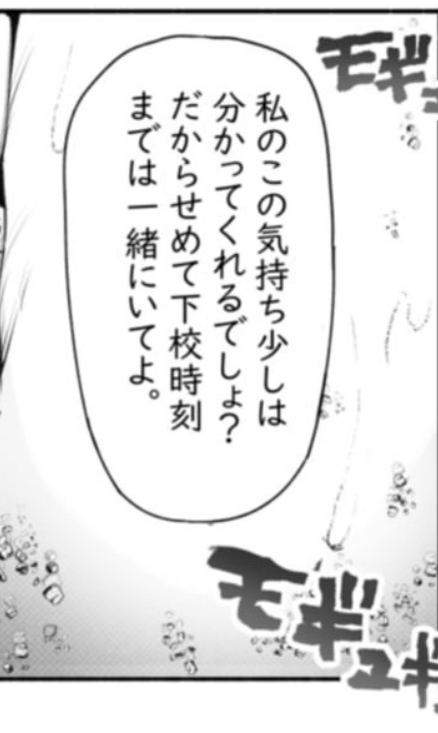


お願いだから…



ムギュー

ムギュー



ムギュー

私のこの気持ち少しは
分かってくれるでしょう？
だからせめて下校時刻
までは一緒にいてよ。

ムギュー



その後も雲下は
宙の相手を続けさせられ



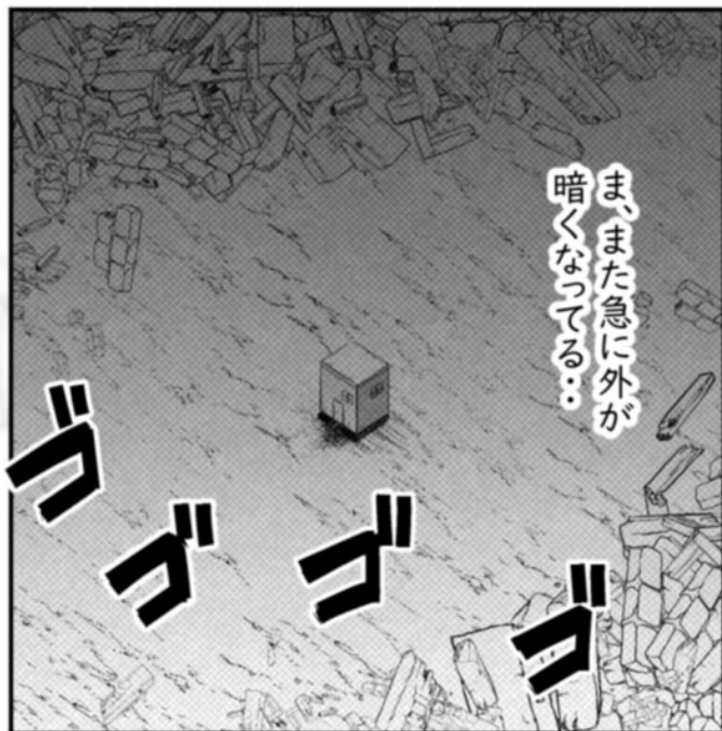
しかし、それでも時は進み
約束の下校時刻が訪れる。

千〇〇



永遠とも思える時間を
彼女と過ごすこととなった。



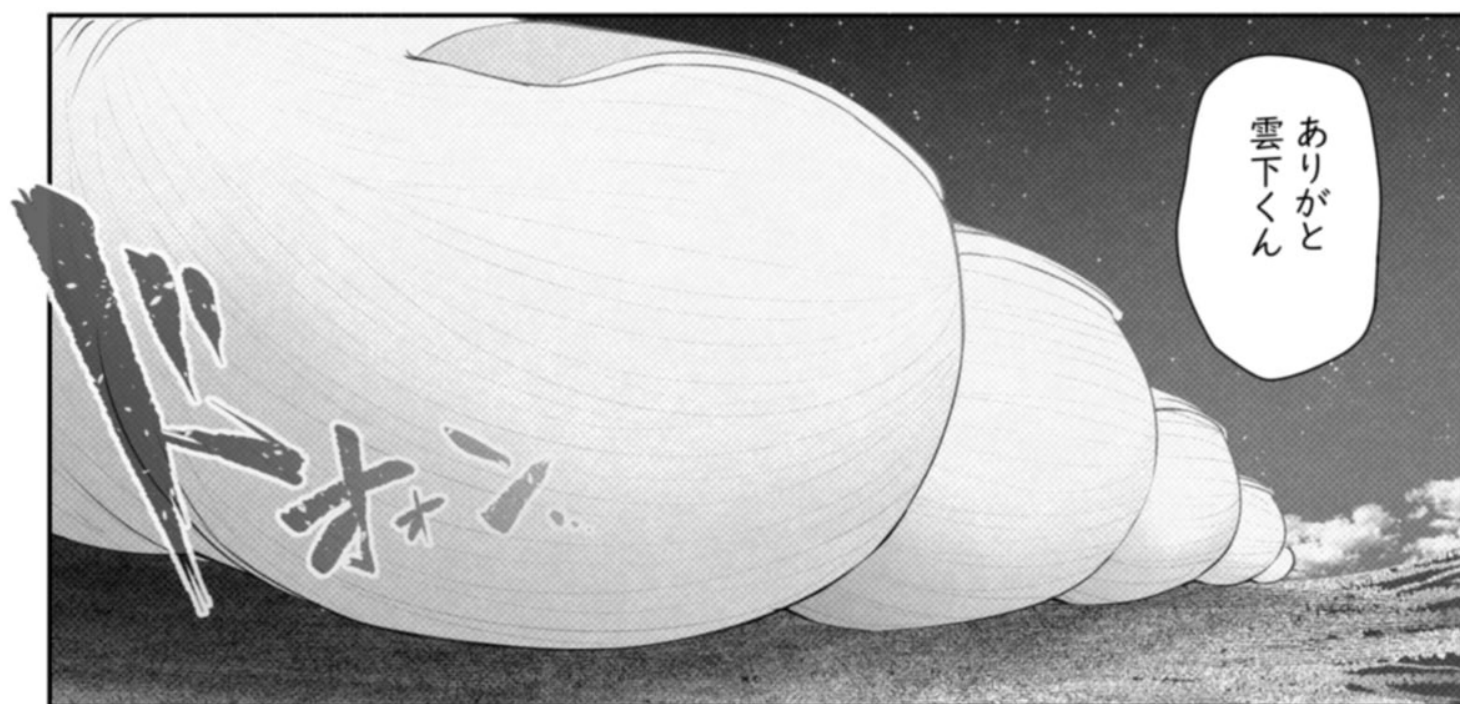




私を一人に
しないで



わ、分かったから
踏み潰さないで…!



ありがと
雲下くん

怒っちゃって
ごめん。

人の優しさに触れたの
初めてだったから・

ググググ

一緒にいてくれるなら
私、もう怒らない

それで・そのせつかく
一緒になったし、やりたい
ことがあるんだけど・

イミナ

